

科学技術大臣会合の概要

平成 17 年 9 月 12 日(月) 多くの国から科学技術担当大臣が集まる第 2 回 STS フォーラム開催の機会を利用し、京都迎賓館にて科学技術大臣会合を開催(棚橋科学技術政策担当大臣主催)。今回は、日本を含む 16 カ国の科学技術大臣等が参加した(別紙：出席者一覧)。

冒頭、棚橋大臣より、第 3 期科学技術基本計画の策定において、社会・国民に支持され成果を還元する科学技術、人材育成を重視していることを紹介し、その後、各大臣から意見、見解を述べていただいた。

主要なポイントは以下の通り。

- ・ 科学技術は経済社会の発展だけでなく、環境問題等の解決にも重要であり、科学者の知見と政治家のリーダーシップが必要。
- ・ 科学技術の発展のためには、知識層、ビジネス界、金融セクターとの連携を進めていくことが重要。
- ・ 科学技術と社会の関わりを考える STS フォーラムは大変有意義。政策決定者には、温暖化や自然災害が引き起こす様々な問題を解決し、国民を導く役割があり、民間部門、科学者と対話を興し、推進していくことが重要。
- ・ 研究開発投資を拡充していくことが必要であり、対 GDP 比で目標を設定している国も多い。さらに、明確なコンセプトを持った研究開発投資の戦略順位付けや、科学技術投資に係る官民負担のバランス、高等教育への投資も重要。
- ・ 科学技術分野における政府の重要な役割はルール作りと集中と選択であり、集中投資、重点化などを行うための戦略計画を設けている。
- ・ 基礎研究の成果をイノベーションにつなげるためのシステム改革を重視しており、科学技術政策のスコープとして、基礎研究への支援だけでなくイノベーションも含めて全体論的に広く捉えることが必要。また、研究開発投資と、アウトカムとしてのイノベーションの関係をシステム論的に明らかにしていくことも重要。アカデミー、大学、研究所、私企業が研究資金を争っている状況であるが、これらが協働することにより、資源をより効果的・効率的に使うことを目指している。
- ・ 人材育成をきちんと行うには十分な研究開発投資が不可欠であり、人材育成に重点を置いた戦略の策定や、優先的な支援を行っている。
- ・ 若い人材が活躍できる環境作りも重要。旧社会主義国のアカデミーの体質による長老と若手の間の壁を取り払う必要がある。
- ・ 科学技術に対する社会・国民の支持を獲得するには、科学技術に係る倫理問題の取扱が重要。
- ・ アインシュタイン 100 年のようなトピックも活用して市民の啓発に取り組んでいる。

- ・ 途上国は科学技術の恩恵を先進国ほどには受けておらず、一層の国際協力を求めたい。南北協力だけでなく、南南協力、アジアでの協力にも臨んでいる。
- ・ 科学技術を貧困の連鎖を断ち切る鍵としたい。アフリカの発展はアフリカ自身の問題であり、挑戦であり、試練である。中央統制経済から 20 年間かけて世界経済に仲間入りし、年 7.5%の成長を遂げるに至ったエンジンは科学技術であり、また、科学技術は食料不足も解消した。
- ・ 日本の科学は、アジアだけでなく世界に開かれており、良いこと。日本は、アフリカ、東南アジアを助けられる。大臣には是非訪問して欲しい。
- ・ S T S フォーラムで、国際社会に共通の問題を見つけ国際協力の発展につなげていきたい。

(別紙)

科学技術大臣会合出席者

(平成17年9月12日(月) 12:00~13:45 於:京都迎賓館)

	国名	参加科学技術大臣
1	日本	棚橋科学技術政策担当大臣
2	アメリカ	ベメント全米科学財団(NSF)長官
3	カナダ	カーティ首相顧問
4	ドイツ	マイヤークラマー教育研究副大臣
5	タイ	プラヴィット科学技術大臣
6	シンガポール	ヨー科学技術庁長官
7	マレーシア	グワニ科学技術革新省次官
8	ベトナム	ティエン科学技術副大臣
9	ハンガリー	ボダ研究技術大臣
10	スイス	クライバー教育研究次官
11	ルーマニア	アントン研究教育副大臣
12	リトアニア	モツザス教育科学大臣
13	スーダン	ターハ科学技術大臣
14	ルワンダ	ムレンジ教育科学技術研究大臣
15	マラウイ	チルワ産業科学技術大臣
16	南アフリカ	ハネコム科学技術副大臣

